

教育環境の充実

大学論・情報教育・リベラルアーツ

お茶の水女子大学論開講

「お茶の水女子大学論」とは主に1年生を対象として、「大学で何を学ぶべきか」を、将来のキャリアデザインを踏まえて学生自身が考えるための科目です。お茶の水女子大学の歴史と現代社会における位置づけを理解し、各界で活躍する卒業生の職業経験に関する講義を聴き、ディスカッションすることで、学生が自己発見と将来像を形成していくための基礎的要素を身につけます。

各界で活躍している卒業生による講演

(株) パーソナルデザイン代表取締役 唐澤理恵さん (S60家政・被服卒) 「ベンチャー企業への就職から、ベンチャー起業家へ」
(株) 資生堂リサーチセンター 岩城はるひさん (H1理・化学卒、H3修士H11博士) 「化粧品品の化学……ヒトを彩るサイエンス」
麻布高校 磯部ひろみさん (H12文教育・比歴卒、H14修士) 「教職課程の授業を受けていたころには予想もなかったこと」
『日経EW』編集長 野村浩子さん (S59文教育・国文卒) 「ハッピーキャリアの法則～私らしく、ハッピーに働くために」
東京ガス(株) 人事部 山田敦子さん (S61家政・家庭経営卒) 「組織の中で輝く人材」
松下電器産業(株) 蘆ゆき子さん (S56家政・被服卒) 「くらし研究からの新たな価値創造～家電商品開発の現場から～」
特許庁 特許審査第三部 深草亜子さん (H5理・化学卒) 「特許審査にたずさわって感じること」

学部1年生にノートパソコンを貸与

お茶の水女子大学では、平成20年度から「21世紀型文理融合リベラルアーツ教育」プログラムを本格的にスタートするに備え、平成19年4月の学部入学生全員にノートパソコンを無料で貸与することになりました。

同プログラムの狙いは、知識や技術の専門化・多様化と社会のグローバル化が並行して進んでいる現代社会において、高度な教養に加え、発信し交渉する能力、領域横断的な視野、変化に対応する判断力をもった学生を育成することにあります。文系・理系にまたがるテーマにそって、講義・討論・発表・実験実習・演習を組み合わせた科目群をつくり、多面的な学習を通じて、読み・聞き・書き・語り・作るという5つの能力を養成していくことが基本を成しています。その際不可欠なのがパソコンの活用であり、情報教育です。それは、パソコンを自在に使いこなす手法を習得することによって、新たな情報化社会を切り拓く能力を学生が身につけることを意図しています。

貸与されたパソコンは学生自らがセットアップやアプリケーションのインストールを行い、「自分仕様」のパソコンを作っていくことになっています。この諸作業も、教育の一環として考えており、20年度入学者にも同様に貸与する予定です。



貸与されたパソコンをセットアップする学生

附属図書館にラーニング・コモンズが誕生

本年4月、附属図書館1階に新しく「ラーニング・コモンズ」が誕生しました。ラーニング・コモンズは、単なるパソコンの利用スペースではなく、「21世紀型文理融合リベラルアーツ」を支える学生のための共同コミュニケーションスペースです。

ラーニング・コモンズでは、採光を配慮した開放的で明るいスペースに、学生用パソコン約50台を配置しています。全てのパソコンは、全学統一認証システムで管理され、セキュリティ面でも安心して利用できる環境です。無線LANの利用も可能で、本年度から学部新入生全員へ貸与しているノートパソコンを自由に利用できる場としても学生の人気スポットになりました。

サポート面では、ラーニング・アドバイザーとして大学院生が常駐し、パソコンの使い方をはじめ様々な質問に対応しています。



ラーニング・コモンズで



リベラル・アーツ図書コーナー

ラーニング・コモンズの新設に併せて、図書館2階には、リベラルアーツ図書コーナーを新設しました。

平成20年度からの「お茶大型リベラルアーツ」教育の本格開始に向けて、さらに学生用図書充実していく予定です。

教育環境の充実

大学論・情報教育・リベラルアーツ